

電子情報通信学専攻	研究分野	自然言語処理	Lab. ID EI28
研究室Webサイト			
研究課題の概要			
自然言語処理(NLP)は、人間が日常的に使用する言語をコンピュータに理解・生成させる技術です。この分野は、コンピュータサイエンスと言語学が密接に関わる学際的な研究領域であり、人工知能研究の重要な一翼を担っています。急速にデジタル化が進む現代社会において、自然言語処理は、機械翻訳や自動要約などのテキスト生成、感情分析などのテキスト分類など、幅広い応用分野で極めて重要な役割を果たしています。 近年、LLM(Large Language Model: 大規模言語モデル)、つまり事前学習済み言語モデルの台頭により、自然言語処理の様々なタスクの性能は飛躍的に向上しました。特に、テキスト生成分野で顕著な進歩が見られます。これらのモデルは、膨大なテキストデータから言語の規則性やコンテキストを学習し、人間の言語使用に近い柔軟性と理解力を示すようになりました。しかしながら、LLMを含む最新の自然言語処理技術には、まだ多くの実応用上の課題が残されています。本研究室では、これらの課題に取り組むべく、私たちは、各自然言語処理タスク、あるいはそれらを支える基盤技術の研究に取り組み、その成果を社会へ還元していくことを目指しています。			
博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等			
メンバー全体のゼミだけでなく研究テーマ別の勉強会を開催したいと考えています。また、自然言語処理に直接関わらないがコンピュータサイエンスにとって重要なテーマに関する集中勉強会やハッカソンを夏期に開催したいと考えています。また、研究テーマごとに興味をもったメンバが集まり互いに教え合うようにしたいと考えています。ただし、研究テーマ間のつながりを意識し、一人が複数の研究テーマに関わるようにしたいと考えます。			
研究室生活の紹介等			
基本的には研究室に来て欲しいと思っています。なんでも一人で解決できる人であれば研究室に来る必要もないでしょうけれど、多くの人はそうではないと思います。研究室に来ることで議論が進んだり、プログラミングが捗ったりするかもしれません。何気ない会話のなかに研究のヒントが隠れていることもあるかもしれません。せっかく、大学の研究室に所属するのでそれを最大限活かして自らの成長に繋げていって欲しいと思います。また年次が上がれば、後輩と一緒に研究を進めるということも意識して欲しいと思います。他の研究室のことはわかりませんが、わりとやることが多い研究室と言えるかもしれません。			
教員からのメッセージ			
自然言語処理は単一の技術分野ではなく、機械学習(数理モデルなど)、アルゴリズム、データ構造といった計算機科学の様々な技術から成り立っています。言語学的な側面に加え、こうした計算機科学の技術分野に興味がある方も歓迎します。研究室配属時点でのプログラミング能力は問いませんが、ある程度の能力がなければ研究に取り組むことが困難であることをご理解ください。教員として、できる限りのサポートはしていきたいと考えています。しかし、研究を進めるのは学生さん自身です。研究に主体的に取り組んでもらえることを期待しています。			
研究室連絡先メールアドレス	平尾努 <hirao *at* se.kanazawa-u.ac.jp>		